

5 学習評価の進め方

単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて進めていくことが考えられます。

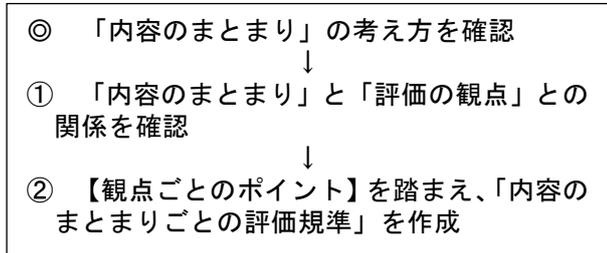


解説動画

◆ 「内容のまとまりごとの評価規準」の作成

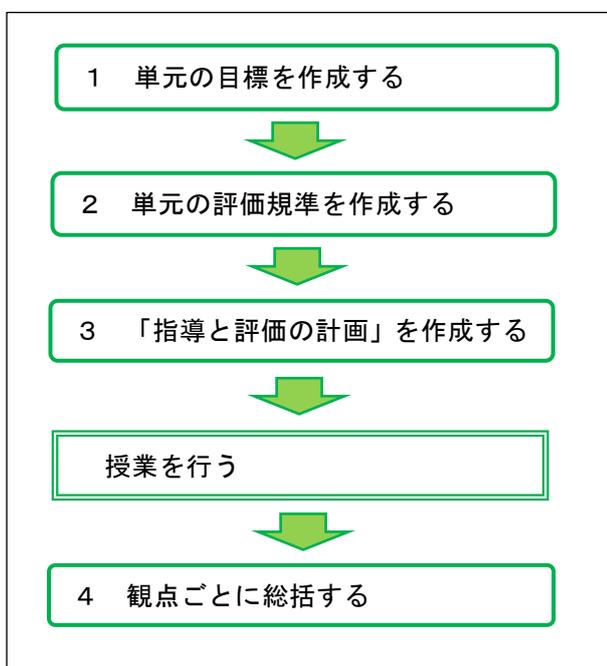
「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際、その前提として、各教科等における「内容のまとまり」の考え方を確認する必要があります。

その上で、①各教科等における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認し、②【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。



◆ 単元ごとの学習評価の進め方

単元ごとの学習評価については、次のように進めることが考えられます。



なお、複数の単元にわたって評価を行う場合など、上記に示した方法によらない事例もあることに留意する必要があります。

各教科等における学習評価の進め方の具体例については、7ページからの「II 各教科等」において、記述しています。

◆ 単元ごとの学習評価を進める際の留意点

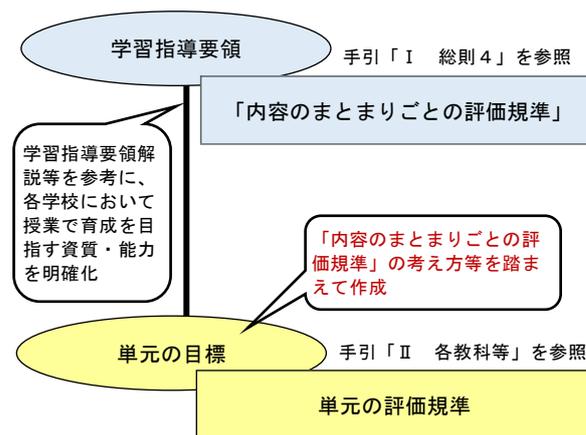
学習評価を進める際には、各段階において、それぞれ、次のことに留意する必要があります。

1 単元の目標を作成する

2 単元の評価規準を作成する

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて、作成します。
- 児童の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成します。

単元の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図）



※ 外国語科及び外国語活動においてはこの限りではありません。

3 「指導と評価の計画」を作成する

- 1、2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画します。
- どのような評価資料(児童の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりします。

授業を行う

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。

4 観点ごとに総括する

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行います。